



<フィリピン・リサーチ・レポート>

情報提供用資料

2023年11月28日

フィリピンの2023年第3四半期GDP成長率

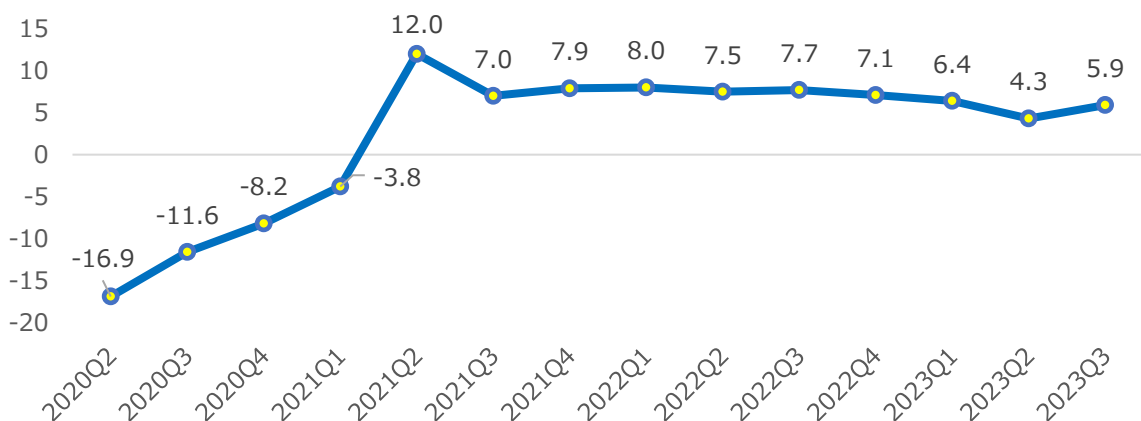
フィリピン統計局（GSO）によれば、2023年第3四半期の国内総生産（GDP）実質成長率は前年同期比 5.9%となり、東南アジアの主要国の中で最も高い伸びであった。2023年第2四半期実績（4.3%）やエコノミストの予想中央値（4.9%）を上回った。高インフレや外需の減速にもかかわらず、堅調な内需によって支えられているといえる。

第3四半期の成長に貢献したのは、商業（卸売/小売業/自動車・オートバイの販売・修理等）が前年同期比 5.0%増、金融業が同 9.5%増、建設業が同 14.0%増などであった。

主要な経済部門では、農林水産業が前年同期比+0.9%、製造業等産業が同+5.5%、サービス業が同+6.8%とそれぞれ成長した。需要別成長率（前年同期比）では、家計の消費支出が5.0%増加した。さらに、政府の最終消費支出+6.7%、総固定資本形成+1.6%であった。なお、財・サービスの輸出が+2.6%、輸入は+1.3%であった。

「インフレが緩和し、労働市場の状況が引き続き好調である、特にホリデーシーズンには個人消費が増加することから、同国は 2023 年の開発予算調整委員会（DBCC）による成長率予想レンジである 6.0～7.0%に近い通年 GDP 成長率を達成すると確信している」とディオクノ財務長官は表明した。

四半期別 GDP 成長率（2018年の価格）



出所：フィリピン統計局（PSA）、フィリピン中央銀行（BSP）、開発予算調整委員会（DBCC）

以上

免責事項

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。